



特定非営利活動法人ハート・オブ・ゴールド 年次報告書

2019 ANNUAL REPORT

2019. 4. 1 - 2020. 3. 31



NIPES (国立体育スポーツ研究所) 開講式 (2019.12.4)

この法人は、被災地や紛争地及び開発途上国の子ども達、障がい者、貧困層の人々に対して実施するスポーツや教育、その他の活動が、人生にチャレンジするための「希望と勇気」を持てる機会を創ることを目的とする。

特に、苦境に立ち向かう人々が自分達の抱える問題を自らの力で解決していく自立へとつながることを目指し、彼らと共に人材育成に力を注いでいく。

ごあいさつ

1996年アトランタオリンピック直後に、内戦を終え平和を迎えたカンボジアで、地雷の廃絶と被害者支援を目的としたチャリティマラソンを開催するので、走ってほしいと声をかけられました。それが、第1回アンコールワット国際ハーフマラソンでした。私自身、皆様に応援され、支えられてきた人間として、「走ること」を通して社会の役に立てることをうれしく感じました。1998年に組織として多くの人達とともに、国際貢献、社会貢献を続けることが重要だと考え、ハート・オブ・ゴールドを立ち上げました。

世界遺産アンコールワットの中を駆け抜ける大会が、世界から認知され、地雷被災者を支援し、そして最終的にカンボジア人によって国際レースができるように人材を育成することを目的に進めました。

16カ国、参加者645人で始まった大会が、今では、85カ国、12,000人以上の参加者で世界中から愛されるマラソンとなりました。そして、この大会から障がい者、子ども達に多くの支援が続けられています。2013年第18回大会を機に、すべての運営を現地に移譲し、当初の目的を果たしました。今では名誉会長として、毎年参加しています。

20周年式を迎えて、懐かしい多くの方々と来た道を振り返り、これからの道を思いめぐらしました。20年の間には困難なことも多くありましたが、毎回問題と向き合って、とことん話し合い、コミュニケーションを大事に決して諦めないで続けたことが、人を変え、自分をも変えていったように思います。

20年前は、スポーツを通じた開発活動は、世界的にもほとんど関心が持たれていませんでした。また、カンボジアもスポーツ・体育科教育どころではありませんでした。毎年、マラソンや青少年スポーツ大会を継続することで、子ども達にスポーツマンシップ、フェアプレイ、協力する楽しみ、がんばる心などが育まれることが見えてきて、カンボジア教育省の人々が体育科教育の実施を強く願うようになりました。

人も、世界も変わります。継続は力なり。すべては私の力となり、喜びとなっています。

ともに活動して下さった方々、ご理解、ご支援して下さった方々に感謝して、20年を超えて進んでいきたいと思えます。

皆様も是非ご参加ください。

ハート・オブ・ゴールド 代表理事

有森裕子



国際交流基金 地球市民賞

岡山県で初受賞！カンボジアにおいて、支援する側とされる側ではなく、対等な交流を目指し、自立かつ持続的に活動していく枠組みをつくっていることが評価されました。活動にご参加、ご支援いただいた皆様とともにいただいた賞です。(https://www.jpff.go.jp/j/about/press/2019/039.html)

「20年を超えて行け！」ハート・オブ・ゴールド 20周年記念式

10月28日、ハート・オブ・ゴールド設立に関わられた皆様がいらっしゃる大阪の地で、多くの方にお祝いをいただき、賑やかに開催できましたことを心より感謝致します。カンボジア教育・青年・スポーツ省、日本語の研修生や留学生など、日頃活動をともしする仲間にもご出席いただきました。活動報告や20周年表彰、長いようで短い20年間で写真によって振り返り、懐かしい方々との再会に時間を忘れるひとときを過ごしました。(特別協賛：学校法人常翔学園、協力：OHK岡山放送)

2019年度 事業報告



(1) 特定非営利活動に係る事業

定款の事業分類	事業名	主な事業内容	実施場所
国内外におけるスポーツ大会、イベントの運営協力事業	アンコールワット国際ハーフマラソン(AWHM)後援	・参加者は12,175人(85カ国・地域から) ・ツアー参加者がAWHMや前夜祭、活動に参加	カンボジア
	スポーツエイド/チャリティイベント	・チャリティマラソン、スポーツ大会、イベント等の実施、協力	日本
スポーツを通じた開発支援事業	小学校体育科教育普及	・青年海外協力隊と連携し、現地での体育普及に協力 ・教育大臣を始めとしたキーパーソンへの働きかけを継続	カンボジア
	スポーツ施設設置	・体育拠点小学校及び中学校、青年海外協力隊の活動小学校に施設、用具を支援(鉄棒、マット、雲梯、ボール) ・設置済み浄水器のメンテナンス	
	中学校体育科教育指導書作成・普及事業 【JICA 草の根技術協力事業】	・指導書執筆ワークショップ、教育・青年・スポーツ省による指導書認定、指導書導入モデル州ワークショップ(3都・州)、体育実施状況モデル州モニタリング(3都・州)、体育公開授業(プノンペン都)	
	NIPES4年制大学化プロジェクト 【外務省 NGO 連携無償資金協力】	・カリキュラム内容検討ワークショップ(4回)、アドミッションポリシー&キャリア・パスウェイ・レビューワークショップ、評価ポリシーワークショップ、体育科コース運営ハンドブック作成ワークショップ、体育科コース運営ワークショップ、体育教員育成ワークショップ、教員マッチアップワークショップ、本邦研修、タイ研修、施設管理ワークショップの実施・プール建設	
障がい者支援事業	障がい者陸上競技振興	・チェイ小学校健康手帳作成 ・高校体育科指導書作成支援 本邦研修(9名) ・小学校運動会モニタリング(バタンバン州)	カンボジア
	日本のマラソン大会への招聘	・パラ陸上記録会開催・選手、コーチの能力向上のためのワークショップ及びトレーニング支援を継続 ・アンコールワット国際ハーフマラソン参加への支援継続	
被災地・紛争地における自立・復興支援事業	日本語教育	・パラ陸上記録会開催・選手、コーチの能力向上のためのワークショップ及びトレーニング支援を継続 ・アンコールワット国際ハーフマラソン参加への支援継続	カンボジア 日本
	養護施設(NCCC)運営	・孤児や貧困児童の受入れ、里親制度による養育	カンボジア
	子どもの健康増進・疾病予防	・日本人歯科医による検診と歯磨き指導(チェイ小学校)	日本
	被災地支援	・むかわ町への小学校設備支援と健康教室開催支援 ・だがしの日被災地リレー共催(西日本豪雨被災地)	日本
国際理解・交流事業	スタディツアー	・個人、団体のスタディツアー受入れ(PNH14回、REP15回) ・国際協力の現場でのボランティア体験や交流による貧困、平和、開発について理解を深めることへの協力	カンボジア
	サービスマスター(学校教育)	・講師派遣、スカイプや文通などで交流(10回) ・国際協力の実践的学習の場を学校に提供	日本 カンボジア
	研修啓発・講演会・イベント	・HGについての講演・報告・広報活動(10回)	日本 カンボジア
	インターン受入れ	・インターンの受入れ(短/長期)(1名)	日本 カンボジア
その他、当法人の目的を達成するために必要な事業	調査 / 研修	・調査ならびにシンポジウム、国際会議等への参加	カンボジア
	広報活動	・「HG通信」(年2回)、年次報告書及び広報資料作成 ・ホームページ、SNSの管理、更新 ・イベントでのパネル展示等による活動の広報 ・20周年記念式を開催(大阪)	日本

(2) その他の事業

定款の事業分類	事業名	主な事業内容	実施場所
バザー、その他物品販売事業	販売事業	・バザー、イベントでのブース出店 ・オリジナルグッズ販売	日本

アンコールワット国際ハーフマラソン

事業分類	国内外におけるスポーツ大会、イベントの運営協力	 
協働団体	カンボジアオリンピック委員会(NOCC)、カンボジア陸上競技連盟(KAAF)、カンボジア観光省(MoT)、カンボジア障がい者陸上連盟(CDAF)	

活動概要

【大会趣旨】 **Building a better future – Aids for children and disabled people in Cambodia”**

(カンボジアの障がい者と子ども達の未来のために)

- ・世界に向かって「非人道的な対人地雷の使用禁止」を訴える。
- ・カンボジアへの世界各国からの支援に感謝し、元気なカンボジアを訴求する。
- ・健常者と同様に、障がい者もスポーツを楽しみ、ともに走ることを通じて、勇気と希望を分かち合うことができる。
- ・大会から、障がい者の社会復帰や自立支援、医療、子ども、貧困対策などの活動に寄付される。

【主催】カンボジア観光省、同オリンピック委員会、同陸上競技連盟

【主管】カンボジア陸上競技連盟

【運営】アンコールワット国際ハーフマラソン実行委員会(AMC)、Cambodia Events Organizer Co., Ltd.(CE)

【後援】カンボジア王国政府、シェムリアップ州、観光省、文化・芸術省、教育・青年・スポーツ省、APSARA Authority、ハート・オブ・ゴールド(HG)、在カンボジア日本国大使館、在日本カンボジア王国大使館、カンボジア赤十字、ハンディキャップ・インターナショナル、カンボジアトラスト、アンコール小児病院、ロイヤルアンコール国際病院、サンライズジャパンホスピタル、Sokha Siem Reap Resort & Convention

【日時】12月8日(日) 午前5時 15分スタート

【種目】ハーフマラソン(男女/車椅子男女)、10km(男女/義足男女/義手男女)、5km(男女)、3km ファン・ラン(オープン)

【コース】アンコール遺跡周回特設コース

【プレイベント】・コース下見(12/7): CE 運営 ・前夜祭(12/7): 観光省・CE 運営

【参加者】12,175人(85カ国・地域から)

【チャリティ実績】今大会: **US\$115,400**



夜明け前から多数のランナーが参集



車いすランナーとともにゴールへ



10km 義手の表彰台上立つランナー達

特記事項

- ・有森代表の1996年の第1回大会参加を機に、1998年有志とともにハート・オブ・ゴールドを設立。以後15年間、大会の運営協力を行い、2013年の18回大会にカンボジア側に、資金調達、会計、広報、準備、運営など全てを移譲した。翌19回大会から有森代表は大会名誉会長として、日本からのランナーを同行して参加している。
- ・年々、参加者が増えているため、ランナーが安心・安全に走れるよう**危機管理体制の整備**をアンコールワット国際ハーフマラソン組織委員会・実行委員会に提言していく。
- ・HGスタディツアー(12/5-9)の参加者約15名がカンボジアを訪れた。前夜祭やマラソンへの参加をはじめ、当会が運営する養護施設(ニュー・チャイルド・ケア・センター:NCCC)を訪問し子ども達と交流したり、チェイ小学校で歯科検診や体力測定などのボランティア活動を行ったりした。
- ・大会に参加した10km義手男子2位 Yi Soksanさんと全盲ランナーYin Sotさんが有森賞に選ばれ、2020年4月開催「かすみがうらマラソン」に招待される予定だったが、新型コロナウイルス感染症の影響により大会は中止となった。

支援・協力団体

かすみがうらマラソン、奈良トヨタ自動車(株)、タイヨー薬局、日立建機(株)、兵庫県高校陸上競技合宿有志

カンボジア王国国立体育・スポーツ研究所(NIPES)体育科コース4年制大学化事業

【外務省 日本NGO連携無償資金協力事業】

事業分類	スポーツを通じた開発支援	
支援対象	カンボジア王国 教育・青年・スポーツ省(MoEYS)、国立体育・スポーツ研究所(NIPES)	
活動理由 <p>現在、カンボジア教育・青年・スポーツ省(以下、教育省)は、教育改革を進めており、ASEAN 基準に合わせるため、すべての教員が学士(4年制大学卒業)を取得できるよう、教員養成課程を4年制化しようとしている。一方、体育科については、国立体育・スポーツ研究所(以下、NIPES)において2年制課程で中学校・高等学校の体育教員を養成しており、4年制にするためにはカリキュラム等のシステム構築、人材育成、施設整備等、多くの課題を抱えている。</p> <p>よって本事業では、10年にわたりカンボジアの体育科教育の発展のために活動してきた当会の知見を活かし、先行している他教科の教員養成大学と一貫性のとれた4年制体育大学を設立することを目指す。</p>		
活動概要 <p>本事業は2019年1月1日より活動を開始し、12月31日に第1年次の活動を完了した。4月以降の活動は以下のとおりであった。</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. アドミッション・ポリシー、キャリアパスウェイ・レビューワークショップ (4月1-2日) ・3月19-22日に開催したワークショップを振り返り、アドミッション・ポリシーならびにキャリアパスウェイを作成した。 2. 日本研修 (5月6-15日) ・NIPESの教員4名に、日本体育大学等にて体育教員育成研修を実施した。 3. カリキュラム内容検討ワークショップ (第2回目、5月28-30日) (第3回目、6月7-8日) (第4回目、7月9-11日) (第5回目、8月12-14日) ・第4回目は Putra Malaysia 大学の Lian Yee Kok 教授を招聘し、カリキュラムフレームワーク案の最終チェック、修正を行った。第5回目はカリキュラムフレームワーク最終案に従ってシラバス案を改訂し、担当者を明確にした。 4. 評価ポリシー・ワークショップ (6月25-27日) ・茨城大学の吉野聡教授を講師として招聘。 5. タイ研修 (8月23-29日) ・カンボジアから4名(教育省次官補1名、NIPES3名)が参加し、タイの3大学の体育科授業の視察及び今後の人材育成・交流事業について意見交換。 6. 教員マッチアップワークショップ (9月20-21日) 7. カリキュラムフレームワークが教育大臣より正式承認 (10月4日) 8. 体育科コース運営ハンドブック作成ワークショップ (10月9-11日) 9. 日本研修 (11月14-23日) ・NIPES 所長以下4名が日本体育大学を視察。4年制大学の運営について研修。 10. 体育教員育成ワークショップ (11月26日-28日) ・カリキュラムフレームワークとシラバスを使って模擬授業を行った。 11. 体育科コース運営ワークショップ (12月13-14日、23日) ・体育科コース運営ハンドブック(教職員用)(学生用)の最終版を作成 12. プール建設工事 ・プール建設工事は3月7日に開始し、9月15日に完了。10月4-5日に「施設管理のためのワークショップ」を実施し、施設譲渡契約書を交わしてプールをNIPESに正式に譲渡した。今後はワークショップに参加したNIPES職員が交代で維持管理を担当。 		
支援・協力団体 外務省、在カンボジア日本国大使館、筑波大学、日本体育大学、タイの大学: Srinakharinwirot University(SWU)、North Bangkok University(NBU)、Kasetsart University(KU)、マレーシアの大学: University Putra Malaysia		 <p>日本体育大学での研修</p>  <p>カリキュラム と シラバス</p>  <p>タイの大学での研修</p>  <p>新プールで水泳の授業</p>

事業分類	スポーツを通じた開発支援	
支援対象	カンボジア王国 教育・青年・スポーツ省(MoEYS)、地方教育局(POE、DOE)、モデル中学校	
<p>活動理由</p> <p>カンボジアでは 1970 年代の内戦で、施設、人材・教材等、教育システムが根底から破壊された。1991 年のパリ和平協定以降、教育インフラの再建は進められていたが、人間性の発達に重要な役割を担う情操教育にはほとんど着手されていなかった。なかでも国家の未来を担う子ども達の心身の健全な育成のために重要な役割を果たす体育科教育はほとんど行われておらず、簡易運動に留まっていた。当会は、まず小学校体育科教育の復興のため、2006 年から 11 年にわたり、教育・青年・スポーツ省、JICA、筑波大学との連携を図り、学習指導要領の新訂と指導書作成の支援、15 州の 13 教員養成校と 33 小学校(後に、認定小学校となった)への普及と、教育省の自立的普及のための人材育成等を行なった。続いて 2015 年からは中学校体育科教育の支援を開始し、学習指導要領作成支援と人材育成のための事業を実施した。2016 年 12 月に学習指導要領が教育・青年・スポーツ省により認定され、体育の授業で、7 領域 20 種目を通して、「態度、知識、技能、協調性」を教えていくことが明記された。2017 年からは、それに沿った指導書の作成支援と普及のためのワークショップやモニタリングを実施している。</p> <p>引き続き、小・中学校の一貫した体育科教育の確立を目指して活動を行っていく計画である。</p>		
<p>活動概要</p> <ol style="list-style-type: none"> 指導書案確認・修正・イラスト調整作業 <ul style="list-style-type: none"> 教育省技術委員会(TC)から提出された指導書案を翻訳し、内容確認。 各領域間、種目間の一貫性を整理。更に、専門家に確認し、内容修正。 指導書に挿入するイラストを日本の指導書を参考に作成。 2019 年 9 月に中学校体育の指導書が教育・青年・スポーツ省により認定。 指導書作成ワークショップ (1回) <ul style="list-style-type: none"> 最終的な指導書を確認するワークショップを実施 指導書導入ワークショップ <p>(プノンペン都、バタンバン州、スヴァイリエン州、各1回)</p> <ul style="list-style-type: none"> モデル州(プノンペン都4校、バタンバン州 14 校、スヴァイリエン州 22 校)に対して、指導書を紹介するワークショップを実施。 前年度同様、新しい体育に対する教員の理解度を確保するための質問による調査を実施し、教員の理解度を確保。 PE モニタリング <p>(プノンペン都3回、スヴァイリエン州3回、バタンバン州2回)</p> <ul style="list-style-type: none"> 指導書を利用した体育の授業をモニタリング。より良い体育授業を実践するために、指導案の書き方や指導法に対するアドバイスをを行った。 技術委員会メンバー、州教育局担当官が共通のフォーマットにより、モニタリングを実施。 公開授業 (プノンペン都1回) <ul style="list-style-type: none"> プノンペンのモデル校が互いに体育授業を見学。モニタリングと同様の体育授業評価フォーマットを使用し、授業観察。より良い体育授業を行うため学び合った。 青年海外協力隊との連携 ※本事業ではないが、連携事業として実施 <ul style="list-style-type: none"> プノンペン都の井上隊員、バタンバン州の川俣隊員、廣瀬隊員、小林隊員、スヴァイリエン州の西原隊員と連携し、各州の体育普及を進めた。 国立体育・スポーツ研究所(NIPES)配属の岡本隊員と協力し、NIPES の体育教員養成カリキュラム内容を検討。 雨天体育施設 ※本事業ではないが、本事業モデル校に対して支援 <ul style="list-style-type: none"> スヴァイリエン州のバサック中学校に建設。新しい体育に取り組む姿勢が評価され、選定された。雨が降っても体育の授業が可能となった。 		
<p>支援・協力団体</p> <p>(独法)国際協力機構(JICA)、日本体育大学、AWHM、藤沢ロータリークラブ、大光電機(株)、HG 長岡クラブ、みしま西山連峰登山マラソン</p>		 <p>バレーボールの授業 (スヴァイリエン州コークブリン中学校)</p>  <p>指導案を作成する教員を TC メンバーがサポート</p>  <p>指導書導入ワークショップ(バタンバン州)</p>

チェイ小学校健康手帳作成事業

事業分類	スポーツを通じた開発支援	
支援対象	公立チェイ小学校(シエムリアップ)	
活動理由 <p>チェイ小学校は、ハート・オブ・ゴールドが運営する養護施設NCCCに入所する子ども達が通うことから、これまで日本語教室の建築と開講、スポーツ大会開催と設備支援ほか、様々な活動の場として関係が続いている。2015年からは毎年、TAO東洋医学研究会の歯科医ボランティアチームが全校児童の歯科検診と歯みがき指導を行い、そのデータを蓄積しており、今後の児童の健康管理に活用していく。</p> <p>あわせて、チェイ小はハート・オブ・ゴールドが教育省と連携して行う体育科教育支援の対象校ではないが、体力測定の実施指導による児童の健やかな体づくりと、小学校指導要領にも記載される保健の知識にもとづいた健康教育、健康意識の向上を図る。</p>		
活動概要 <p>小学校指導要領の保健体育科の内容にあわせた項目を健康手帳の基本内容とし、チェイ小学校の児童の成長を記録する。そして、児童や保護者、教員が学校や家庭での生活に健康教育を取り入れることができる仕組みを作る。</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 健康手帳作成のためのヒアリング (5回) 健康手帳の記載事項に関して、現状把握と要望調査のため、チェイ小校長に実施。また、ドラフト版の確認等も実施。 2. 健康手帳の作成 記載事項については、TAO東洋医学研究会、岡山学芸館高校SGHの生徒、ハート・オブ・ゴールドにて担当毎に作成。協議、検討を繰り返す。 3. 歯科検診 (12/6) TAO東洋医学研究会の歯科ボランティアチーム5名が中心となり、検診は3グループ(歯科医3人)に分かれ校庭で実施。HG日本語教室卒業生がそれぞれ通訳として補助。同時進行で行った歯磨き指導では、各教室で歯の模型を使用したブラッシング方法の指導後、児童が染色剤を使用して実際に歯磨きを行い、手鏡で磨き残しを確認した。 HGスタディツアー参加者が、検診票の記録(前夜に記録方法を受講)をしたり、児童を列に並べ順番が来たら促したり、歯磨き指導では、紙コップに水を入れたり、ボランティアとして活躍した。 4. 体力測定 (12/6、12/21、1/17) 1回目は、身長、体重を測定。HGスタッフを中心に、HGスタディツアー参加者がボランティア参加。 2回目は、50m走、長座体前屈、反復横跳び、立ち幅跳び、上体起こしを測定。岡山大学(学生9人、教員2人)、岡山学芸館高校(生徒20人、教員2人)をグループ分けし、担当を決めて実施。 3回目は、HGスタッフにより、5分完走を実施。 5. 青少年の活動への関わり 本事業では、当初より岡山学芸館SGHの生徒が主体的に関わり、デザインや記載事項の検討を行い、8月にはチェイ小校長へのヒアリングも実際に現地で行った。また、活動についてG20岡山保健大臣会合(10/19)等で発表している。 岡山大学生、カンボジアの学生や青年達も活動に協力している。 <p>※本事業は、日本財団 HEROs AWARD 2018 助成金により実施。</p>		
支援・協力団体 日本財団 HEROs、TAO東洋医学研究会、岡山学芸館高校SGH、岡山大学、藤沢ロータリークラブ、FIDR		 <p>チェイ小での高校生によるヒアリング</p>  <p>TAOによる歯科検診 虫歯ある？</p>  <p>歯みがき指導</p>  <p>体重測定</p>

障がい者陸上支援事業

事業分類	障がい者支援	 
支援対象	カンボジア王国 教育・青年・スポーツ省(MoEYS)、 カンボジアパラリンピック委員会(NPCC)、障がい者陸上連盟(CDAF)	
活動理由 カンボジアでは、障がい者に対する差別や社会制度が十分でないために、障がい者が社会に出ていくことが難しい。ハート・オブ・ゴールは設立当初から「アンコールワット国際ハーフマソン(AWHM)」をとおして、障がいを持つ人が、スポーツをとおして障がいを克服する力が持てるようになることを願い、同大会への障がい者ランナー参加の仕組みを作った。そして、AWHMで上位に入賞した障がい者ランナーを「かすみがうらマソン」に招待する等、より多くの大会に参加する機会を提供してきた。		
活動概要 カンボジアのパラリンピック委員会や障がい者陸上連盟とともに、障がい者陸上のトレーニングを支援している。選手のトレーニング方法やコーチの指導方法に関しては、専門の指導者がいないという課題を抱えている。選手育成とあわせて、指導者の育成にも取り組んでいる。		
1. かすみがうらマソン (4月 12-17日、大会は 14日) 障がい者ランナー(腕切断、義足)2名を招聘、両名とも5kmに参加し完走。滞在中は、新豊洲 Brillia ランニングスタジアム見学、会員交流会参加。		
		
かすみがうらマソンにて 有森代表と		
2. 日常トレーニング (9-11月、毎土曜日) 障がい者ランナー約 20 名が AWHM を目指してトレーニングを行っている。HG は CDAF と協力し、トレーニングをサポート。		
		
三井氏(中央)によるクリニック		
3. 車いす陸上クリニック (2月 10-11日) 日本福祉大学の三井利仁氏(日本パラ上連盟理事長)による車いす陸上選手及びコーチ向け陸上クリニックを開催。三井氏は 2017 年スポーツ・フォー・トゥモロー事業のワークショップへの招聘実績があり、今回が2回目となる。同氏に同行したゼミ生2名もクリニックに参加し、サポートを行った。 スタート時の姿勢やフォームについて、ビデオで撮影した姿を見ながらアドバイスを受けることができ、選手にとって理解しやすいクリニックとなった。コーチの要望によりリレーの指導も受けることができ、今後のトレーニングで改善していく。		
		
トレーニングをサポートする安部氏(左)		
4. JICA 青年海外協力隊短期派遣ボランティアの受入れ (12月 26日-3月 19日) JICA 青年海外協力隊短期派遣ボランティアとして、東海大学4年安部健也氏が派遣され、約3か月間、本事業に従事した。学生時代の陸上経験や学生トレーナーとしての活動を活かし、選手及びコーチへアドバイスをを行い、練習メニューの改善、自主トレーニングの体制ができるように、毎日、オリンピックスタジアムでのトレーニングに参加した。		
		
絆フェスティバル レーサー試乗体験会		
5. 日本カンボジア絆フェスティバルでパラ陸上体験会を実施 (2月 21日) カンボジア日本人材開発センター(CJCC)、在カンボジア日本国大使館、国際交流基金が共催し、毎年開催しているカンボジア最大規模の日本カンボジア交流イベントでパラ陸上体験会を行った。約 100 名のカンボジアの学生が参加し、HG の活動やパラ陸上選手の話の聞いたり、陸上競技用車いす(レーサー)を試乗したりした。		
支援・協力団体 AWHM、JICA、JOCV、かすみがうらマソン、ヒロシマ MIKAN マラソン、(株)栄光スポーツ、日本福祉大学、駒沢大学陸上部同窓会、HG 飯田クラブ		

養護施設（ニュー・チャイルド・ケア・センター：NCCC）運営事業

事業分類	被災地・紛争地における自立・復興支援	1 貧困をなくそう	3 すべての人に健康と福祉を	4 質の高い教育をみんなに	6 安全な水とトイレを世界中に
支援対象	シェムリアップ近郊の貧困家庭の子ども				
活動理由 カンボジアでは現在も貧困のため義務教育が受けられず、衣食住さえ充分とは言えない状況にある子ども達がいる。孤児、家庭での生活が困難な状況の子どもに対し、安心して生活できる環境のもと養育し、就学の機会を与え貧困の連鎖から抜け出し、自立していけるよう物心両面から支援し、良き市民としてカンボジアを担っていく人材を育成する。					
活動概要 （2020年3月31日現在）					
【場所】 シェムリアップ州タクヴェル郡チェイ村 【子ども数】 15名（男子5人、女子10人）					
<ol style="list-style-type: none"> 教育：小学生はチェイ小学校、中学生はタイショウ中学校、高校生はソムダウア高校に通っている。新学年の授業が始まった11月、スライミエン(6年生)は5年生の時の成績が学年1位となり表彰された。副賞は自転車だった。 日本語は、小学校高学年はチェイ小 HG 日本語教室、中・高校生は NCCC での特設クラスで日本語を学んでいる。9月にスライニットが学芸館高校での1年間の留学を終え帰国し、高校2年生に復学。代わって、8月に高校の卒業試験に合格したスライホームが学芸館高校に留学。両名は12月の日本語能力試験3級(N3)に合格。他の子ども達も、日本への留学を目標に、2人を見習い、毎日頑張って勉強をしている。 また、情操教育として毎月第1・第3土曜日の午後、笠原知子氏が主宰する「小さな美術スクール」で、絵画を学んでいる。12月のHGスタディツアーのTシャツは、毎年子ども達がデザインしたものである。 里帰り：4月のクメール正月、9/10月プチュンバン(クメール盆)の年2回、子ども達はスタッフが付き添い里帰りをしている。プチュンバンの里帰りは、大雨のため日帰りとなったが、子ども達は保護者との大切な時間を過ごすことができた。離れていても家族との繋がりを保てるようにしている。 健康：5年前から、毎年12月にTAO(東洋医学研究会)の歯科医の先生方により歯科検診と虫歯予防教育を実施。子ども達の歯磨きの習慣も身につけ、確実に虫歯が減ってきている。 また、年に1度、クリニックで定期健診を受けいている。 野菜栽培：スタッフ指導のもと、子ども達が野菜作りに励み、かぼちゃ、オクラ、キュウリなどを収穫。農作業を通じて、子ども達は働くことの大変さ、大切さを学んでいる。12月に学芸館高校と岡山大学の生徒・学生達と一緒に土地を耕し、畑を広げることができた。 進路：体験の少ない子ども達の将来の夢は、学校の先生など身近な大人の職業であった。今は、教えることが好きだから学校の先生、料理を作るのが楽しいからコックさん、病気の人を助けたいからお医者さん、というように自分のこととして具体的な夢を持ち始めた。 交流：日本の団体、学校、個人の方の訪問や活動は、子ども達が多くの愛情を受け、世界を広げ、日本を理解し、日本に行く夢を強く持つ貴重な機会となった。 					
支援・協力団体					
(株)翌檜、高野山真言宗南真会、岡山せとうちライオンズクラブ、(株)パンネーションズ・コンサルティング・グループ、TAO 東洋医学研究会、大光電機(株)、AWHM、アニモチャリティバザー、HG 福島クラブ、岡山学芸館高校 SGH、岡山学芸館清秀中学校、岡山市立第三藤田小学校、他協力校、ハート・ペアレント、HG スタディツアー					



行ってきまーす！



畑の野菜は毎日の食卓に



定期検診「怖くない？」



南真会の皆様と一緒に祈り

日本語教育事業

事業分類	被災地・紛争地における自立・復興支援	
支援対象	日本語学習希望者(シェムリアップ)	
活動理由 <p>ハート・オブ・ゴールドがカンボジアで活動を始めてから間もなく、日本語教育支援の要請を受けた。当時、カンボジアの8割を占める農民は非常に貧しく、子どもを手放さざるを得ない家庭も多くあり、また、子どもが成長しても就職するのは困難な状況であった。しかし、アンコール遺跡を有するシェムリアップには日本人観光客も多く訪れるようになり、日本語ができればホテルやレストラン、観光ガイド等の仕事に就くことができた。</p> <p>当会は、2000年9月に公立チェイ小学校内に無料の日本語教室を開講し、多くの子どもが日本語を学ぶようになった。2015年にビルド・ブライト大学(BBU)外国語センターにて、青年を対象に日本語講座を開講し、2019年からはHG MOMOTAROU 日本語学校として、日本での就労を視野に入れた日本語教育を行っている。</p>		
活動概要 <p>シェムリアップでは、従来の観光業による日本語の需要は激減し、日本語教育に求められるものが変化している。学習者のニーズに応えた質の高い指導を提供する。</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. チェイ小学校 HG 日本語教室 本教室の卒業生であるチュート・スライノッチが中心となり、高学年の子どもを対象に指導。日本の文化や習慣などの紹介も授業に取り入れ、日本への興味や理解を深める授業を行っている。 2. HG MOMOTAROU 日本語学校 12月、シェムリアップ事務所の移転を機に、幹線道路に面した校舎で再スタートした。1階は事務室兼職員室、2階と3階に講義室が各1室あり、学習環境が整った。 指導は、チェイ小日本語教室卒業生のカン・ナムオイとコル・ソティアラ、シェムリアップ事務所長の村上、渡辺(-2月末)の4名が行う。 1-6月、7-12月の2期制。現在の生徒のほとんどが社会人で、各自の仕事と日本語学習の両立に努力している現状である。 日本語能力試験については、5級(挨拶等簡単な日本語がわかる程度:N5) 4級(簡単な日常会話ができる:N4)を学習開始からそれぞれ半年、1年で取得することを目標にしている。 3. 日本留学・日本研修 日本語学習の努力により、更に上級の学習機会を得ることができた。 <ol style="list-style-type: none"> (1) 岡山学芸館高校への留学 2018年9月-2019年8月(1年) ロン・スライニット 2019年9月-2020年8月(1年) ロッ・スライホーム (2) 岡山県ローカル・トゥ・ローカル技術移転事業 研修生 2019年9月-11月(3ヵ月) カン・ナムオイ 岡山外語学院にて、日本語教師養成講座受講 <p>※日本語教育は、高等教育という位置付けにより、助成金がなく、寄付が財源となっている。日本の学校からの本や教材の支援を募っている。</p>		
		シェムリアップ事務所兼日本語学校
		新しい教室での授業
		岡山県庁にてナムオイの研修修了式
支援・協力団体 AWHM、岡山外語学院、岡山市立平福小学校、同野谷小学校、朝日塾小学校、他協力校、倉敷平成ライオンズクラブ、トヨタカローラ奈良(株)、(株)トヨタレンタリース奈良、就実中学校・高校、山陽女子ロードレース、個人支援者		

サービス・ラーニング（SDGs、ESD=持続可能な開発のための教育）事業

事業分類	国際理解・交流事業	
支援対象	日本(小・中・高校・大学)、 カンボジア(ニュー・チャイルド・ケア・センター(NCCC)、 MOMOTROU 日本語学校、体育科認定校、教員養成校)	
活動理由 子ども達に、貧困・環境・平和など世界の現状に目を向け、それぞれがつながりあっていることに気づいてもらう。交流や実践の中で、異文化理解、多様性の共存や持続可能な開発などについて考え、そして自らの生活を見直し、自分達の可能性と力に目覚め、進んで社会のために活動できるグローバルな人材を育成する。		
活動概要 (SDGs を学ぶ) 学校が取り組んでいる総合的な学習や国際理解教育、ボランティア教育などに協力。 自分が支援した募金や物資が、現地に届き喜ばれ、活用されたことを知ることで、活動の意味を見つける。相手の立場に立って考えられる冷静さ、継続する大切さなどを認識。友人や家族とともに活動し、自分の周りを変えていくことが社会を変えていくことを実感する。		
1. 出前授業 年間 11 回の出前授業等を実施。代表、スタッフ、日本語教師、留学生など、実際に活動している人から話を聞くことにより、現地を理解。また、自分達にできる活動を考え、実践した。(第三藤田小、野谷小、平福小、曾根小、操明小、朝日塾小、岡山学芸館清秀中、岡山学芸館高校、他)  長岡市立三島中学校にて 有森代表		
2. 交流 手紙やプレゼントの交換を通して異文化理解を深めた。また、第三藤田小は教室と NCCC をスカイプでつなぎ、質問したり、地元を紹介したり、クイズやゲームを披露して仲良くなった。子ども達にとって、お互いの顔が見え、声が聞こえ、話をする直接的な交流は、とても貴重な体験となった。		
3. 受入れ ・カンボジアへの受入れ: 日本の中・高・大学・団体から、スタディーやインターンを活用現場(NCCC、小学校運動会、NIPES、パラ陸上トレーニング等)に、19 件受入れ、研修や交流を実施した。 ・日本への受入れ: カンボジア教育省 10 名が、岡山県立高校3校と岡山大学で高校指導書作成のための研修を実施した。		
4. 設備・物資支援 ・日本の学校や団体が集めた物資をツアーで持ち込み、体育科認定校、NIPES、NCCC、MOMOTAROU 日本語学校、障がい者ランナーなど必要とする所に配付。(Tシャツ、絵本、教材、文房具、カレンダー、玩具、歯ブラシ、タオル、石鹸、衣類、その他生活用品、中古ボール、体育用具、手作りリュックサックなど) ・学校からの募金や寄付金は、現地の小・中学校や MOMOTAROU 日本語学校が必要としている施設や設備、教材の支援に充て、小・中学校に寄付した。(鉄棒7基、雲梯5基、マット 22 枚、ボール 66 個、なわとび 200 本、本棚など)  大学生との交流  小学校からの支援物資を手渡し  岡山市立第三藤田小学校6年生の賞状へ なわとび200本 届けます! 小学校になわとび支援の報告書		
支援・協力団体 岡山市立第三藤田小学校、同平福小学校、同曾根小学校、同野谷小学校、朝日塾小学校、岡山学芸館高校 SGH、岡山学芸館清秀中学校、順天中学校・高校、岡山大学、鳥取大学、愛知県立大学、神戸学院大学、岡山シーガルズ		

活動への支援

ハート・オブ・ゴールドの活動は、皆様のご支援により支えられています。

会員になる

個人会員：年会費 3,000 円(1 口)

法人会員：年会費 30,000 円(1 口)

※会員の皆様には、ニュースレター(年2回)、会員交流会のご案内をお送りします。

寄付をする

いただいた寄付や募金は、子ども、障がい者、貧困層の人々や、今必要としている活動に使わせていただきます。

※ハート・オブ・ゴールドは税制待遇の認定を受けた法人です。寄付は、個人、法人とも確定申告時に寄付金控除が受けられます。

ハート・ペアレントになる

年間 42,000 円 月 3,500 円×12 ヶ月=42,000 円 <要会員登録>

※ハート・チャイルドからのメッセージカードと、現地の様子をお知らせする報告書(年3回)をお届けします。

また、現地を訪問して子ども達と交流するプログラムにご参加いただけます。

グッズを購入

ハート・オブ・ゴールドのグッズを購入。収益が活動に充てられます。

※商品はホームページからご覧いただけます。 <https://www.hofg.org/>

活動に参加する

・ボランティア、インターンとして活動する。

・スタディツアーに参加。

※ハート・オブ・ゴールドのホームページより受け付けています。

ご入金方法

●中国銀行にご入金の場合

取引銀行：中国銀行本店営業部

口座：普通口座、番号：3009402

口座名義：トクヒ)ハートオブゴールド

●郵便局にご入金の場合

口座番号：01300-3-11024

加入者名：ハート・オブ・ゴールド

通信欄：振込金額の内容(会費/寄付の別)を必ず
お書きください。

●オンライン決済/クレジットカードをご利用の場合

(CANPAN 決済サービスにて会費、寄付のいずれもご利用できます。)

<https://kessai.canpan.info/org/heartsofgold/>



※郵便振り込み以外からのお振込みの場合は、必ず、住所、氏名、連絡先、振込目的(会費、寄付、他)をメールか FAX でご連絡ください。ご連絡がない場合は確認が取れないため、領収書が発行できない場合があります。

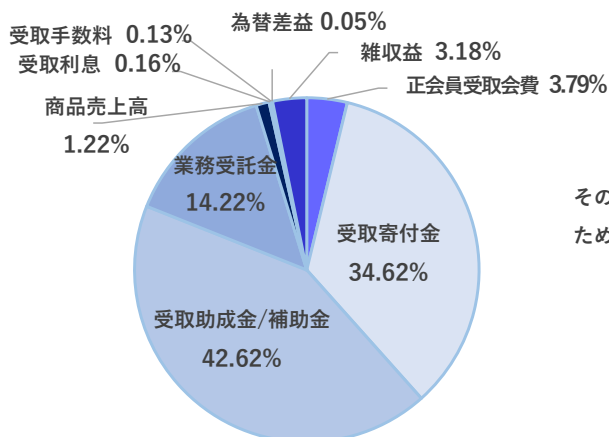
会計報告

2019年度活動計算書 (2019.4.1~2020.3.31)

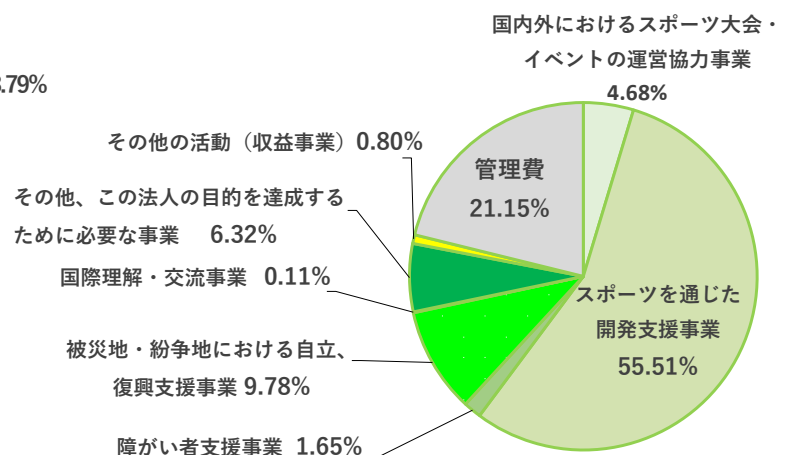
(単位：円)

科目	合計
I. 経常収益	
正会員受取会費	2,964,000
受取寄付金	27,064,792
受取助成金/補助金	33,321,514
業務受託金	11,116,440
商品売上高	955,410
受取利息	126,239
受取手数料	104,403
為替差益	37,049
雑収益	2,489,794
経常収益計	78,179,641
II. 経常費用	
1. 事業費	
国内外におけるスポーツ大会・イベントの運営協力事業	4,211,942
スポーツを通じた開発支援事業	49,984,143
障がい者支援事業	1,488,801
被災地・紛争地における自立、復興支援事業	8,809,760
国際理解・交流事業	98,765
その他、この法人の目的を達成するために必要な事業	5,686,981
その他の活動(収益事業)	719,901
事業費計	71,000,293
2. 管理費	
管理費経費	19,048,722
管理費計	19,048,722
経常費用計	90,049,015
当期経常増減額	△ 11,869,374
III. 経常外収益	
経常外収益計	0
IV. 経常外費用	
経常外費用計	0
経理区分振替額	0
税引前当期正味財産増減額	△ 11,869,374
法人税、住民税及び事業税	142,000
当期正味財産増減額	△ 12,011,374
前期繰越正味財産額	94,141,411
次期繰越正味財産額	82,130,037

▷ 経常収入内訳 (計：¥78,179,641)



▷ 経常支出内訳 (計：¥90,049,015)



2019年度貸借対照表(2020.3.31現在)

(単位：円)

科 目	金	額
I 資産の部		
1. 流動資産		
現金預金	17,488,333	
未収金	5,626,640	
棚卸資産	66,473	
その他流動資産	5,320,714	
前払費用	1,778,284	
仮払金	3,000,000	
貯蔵品	542,430	
流動資産合計		28,502,160
2. 固定資産		
(1)有形固定資産		
車運搬具	624,001	
工具器具備品	324,227	
有形固定資産計	948,228	
(2)投資その他の資産		
敷金	426,104	
事業積立金	53,000,000	
投資その他の資産	53,426,104	
固定資産合計		54,374,332
資産合計		82,876,492
II 負債の部		
1. 流動負債		
未払金	7,845	
預り金	210,810	
未払法人税等	71,000	
未払消費税	456,800	
流動負債合計		746,455
負債合計		746,455
III 正味財産の部		
前期繰越正味財	27,141,411	
事業積立金	67,000,000	
当期正味財産増	△ 12,011,374	
正味財産合計		82,130,037
負債及び正味財産合計		82,876,492



発行 2020年7月

特定非営利活動法人 ハート・オブ・ゴールド

〒701-1213 岡山市北区西辛川895-7 レジデンスアロー101

TEL/FAX:086-284-9700 Email:hginfo@hofg.org

<https://www.hofg.org/> <https://www.facebook.com/heartsofgold.japan>

続ける。続けるために。

続ける。誠実であることを。

日々、課題に向き合い、応える。

続ける。協力し合うことを。

尊重し合い、多様な知恵と技術で成し遂げる。

続ける。イノベーションすることを。

しなやかに発想し、挑戦する。

本当に大切なことが続くために。



ベトナム国 ホイアン市の下水処理施設



来送橋(日本橋)



散水ろ床



最終固液分離槽



高効率固液分離槽



私の“続ける。続けるために。”

続ける。チャレンジすることを。

メタウォーターの技術を世界のスタンダードにするために。

海外ではメタウォーターはまだメジャーではないですが、メタウォーターの技術が世界中で普通に使われる、スタンダードになるようにチャレンジしていきます。そして世界の水環境の改善に貢献したいです。

海外本部 海外営業部

妹尾 真太郎



メタウォーターは、機械技術、電気技術、維持管理ノウハウ、ICTを併せ持つ水・環境企業です。「続ける。続けるために。」の企業理念のもと、国内外の浄水場や下水処理場の設計・建設から運営・維持管理までトータルソリューションを提供できる強みを生かして、自治体や地域企業とともに、水・環境の循環に寄与し、くらしや産業を支えています。



METAWATER

メタウォーター株式会社

